



# みうらネット

発行元：

大阪府議会議員 **三浦とし子**

〒564-0041

吹田市泉町 5-15-22 田中ビル 3F

TEL 06-6190-6877 FAX 06-6190-6511

E-mail: miura@komei-fu.com

## 7月臨時府議会 府民の目線で論戦を展開 安全・安心、元気な大阪をめざして

### 【非常事態宣言から7月臨時府議会までの経過】

▼橋下知事は就任早々、大阪府の非常事態宣言を発し、知事直轄の改革プロジェクトチームが作成した「財政再建プログラム試案（PT試案）」が公表されました。

▼これに対し、公明党大阪府議会議員団は、改革検討プロジェクトチームを設置し、府内40市町村との意見交換をはじめ、施設の視察、府担当部局や各種団体の意見聴取を行いました。

▼我が党は、財政再建のために1,100億円の収支改善は必要であるが、PT試案では歳入確保の努力が盛り込まれていないことや、各事業の精査が十分に行われず一律カットの削減により、府民生活や関係者への影響が大きいなどの問題点について、5月定例会で、知事に質しました。

▼知事は、5月定例会での我が党等の主張を取入れ、

①4医療費公費負担助成事業は「縮減」から本年度は「継続」

②救命救急センターの運営費補助は「廃止」から「継続」

③小学校の35人学級は「廃止」から「継続」

④警察官定数は「削減」から「現行定数を維持」

と訂正する内容で、6月5日に「大阪維新プログラム」を公表し、これをもとに作成された平成20年度当初予算案が、7月臨時府議会に提出されました。

▼7月1日から23日まで開催された臨時府議会では、我が党は、橋下知事の「大阪維新プログラム」にもとづく大幅歳出削減の中での、教育、文化をはじめセーフティネットの確保や安全・安心、元気な大阪づくりの取組みについて質しました。



### 【7月臨時府議会での我が党の質問要旨】

#### ■私学助成制度について

子どもたちが、自由な学校選択のための支援を必要とする経常費助成の削減は、授業料転嫁によって保護者負担の増大につながる

\*知事からの予算案修正により市立幼稚園への経常費助成の削減率が5%から2.5%に縮小されました。

\*授業料軽減助成については、我が党の主張を取入れ、ほぼ現状に近い形になりました。

議場で答弁する  
橋下知事



#### ■文化施策の推進

先人たちが残してくれた文化財やそれを支えてくれているすべての人の存在、それこそが文化である。次の時代を担う子どもたちのためにも、文化や施策の廃止や削減は更なる議論が必要である。中でも、大阪センチュリー交響楽団、ワッハ上方、大阪国際児童文学館の見直しについては一層活用する方向で再検討すべき。

#### ■大阪府男女共同推進財団

男女共同参画社会の実現は、21世紀の最重要課題である。財団がもつノウハウを生かし、総合的、体系的に施策が推進されるよう求める。

\*財団の自立化が、我が党の主張が取り入れられ、1年延ばし、22年度からとなりました。

#### ■その他

中小企業支援事業、高齢者の生きがい、地域生活支援事業、市町村への権限委譲、府補助金の交付金化などについて、知事の考えを質しました。

#### ★真の議会改革＝議員定数の見直し

今回の改革にあたり、府議会議員の報酬を15%削減することとなりましたが、我が党は、報酬削減の議論の際、「真の議会改革を行うには、議員定数の見直しが不可欠である」と訴えました。

我が党がめざす議員定数の見直しは：

任意合区も含め、現行定数（112議席）

より12議席を減じ、100議席にすべきと訴えています。

◆本会議での代表質問、一般質問での質疑の模様は、府議会ホームページをご覧ください。  
( <http://www.pref.osaka.jp/gikai/> )

# 三浦とし子議員が、健康福祉常任委員会で質問 安心安全な医療体制の拡充を



三浦議員は、健康福祉常任委員会で①救急医療適正利用支援事業 ②助産師の活用 ③がん対策に係わる緩和ケア ④自殺対策について、府関係部局の取組みや考え方について質しました。特に自殺率が増加している大阪府の現状から、自殺対策についての認識と取組みについて知事に質しました。

◆常任委員会での質疑の様子は、府議会ホームページをご覧ください。  
( <http://www.pref.osaka.jp/gikai/> )



## <質問の要旨>

### ■救急医療適正利用支援事業について

知事の「大阪維新プログラム」では、救急医療体制の充実を重点政策課題と位置づけているが、緊急性の低い軽症の患者が、救急病院に押し寄せる事で、医師の負担が重くなっている問題がある。救急病院が真に必要な場合に適正に利用されるようどのように府民に対し啓発、さらには府民の理解を得る為のアプローチを考えているのか。

小児救急電話相談事業の実績をもとに、主に軽症者の救急利用対策として、大人を対象とした救急電話相談事業の実施を検討してはどうか。

### 実際にあった救急車の要請

- 湿疹がかゆい
- 昨日飲みすぎた
- くつづれで足が痛い
- 便秘でおなかが張る
- 虫歯が痛い
- 深爪をした
- 蚊に刺されてかゆい
- 風邪をひいて、のどが痛い
- 海水浴に行って、日焼けした足がヒリヒリする

### ■助産師の活用について

周産期医療においては、重症妊産婦などハイリスク分娩が増える中、産科医不足など、大阪府においても、地域ごとにバランスの取れた安全・安心の出産体制の確保が課題。これまでも我が党が指摘してきたところ。正常経過の妊産婦のケアや助産ができる助産師の活躍する助産師外来や院内助産所の取組みについて

### ■緩和ケアについて

緩和ケアは、従来の医療教育には無かったもの、がん診療に携わる医師に対する考え方が十分浸透されているか。また、「緩和ケア」の考え方では、医師だけではなく、多様なスタッフが関わる必要がある。がん診療連携拠点病院における緩和ケアの提供体制をどのように考えているか

がん診療連携拠点病院において、緩和ケアが質・量とも十分に提供できる事が重要。また、24時間体制で往診や訪問看護に応じる事ができる在宅療養支援診療所や訪問看護ステーション、かかりつけ医などの在宅での緩和ケアに関わる人材の育成が必要である。



### ■自殺対策について

全国の自殺者数が平成10年に3万人を超えて以降、昨年の自殺者数が3万人を上回り、大阪府でも2241人。深刻な状況の中で、また、様々の要因がある中で、自殺予防は、市町村をはじめ、広範な関係機関や団体の協力のもとより、庁内においても横断的な対策が必要であるが総合的な取り組みはどうか。

自殺対策予算が大幅な縮減となっているが、今後の対策を総合的に推進していくために、どのような対策を考えるのか。

知事に対しては、大阪府の状況に対して、自殺対策における認識を聞くと共に、自殺率の減少は喫緊の課題。自殺対策に取り組む決意を伺う。これに対して、知事から自死遺族支援全国キャラバンにも参加されたことを通し、「私が先頭に立って、命の大切さを訴えるなど、総合的な対策をすすめていきたい」との答弁があった。